

## 厚生文教常任委員会視察研修報告書

口 田 邦 男 委員長

- 調査事項 ①スポーツ振興によるまちづくりについて  
②子育て支援について ③郷土教育について
- 調査期日 令和4年7月12日(火)～15日(金)
- 調査先 ①和歌山県上富田町 ②愛知県豊橋市 ③渋沢史料館
- 調査の結果

### ①「スポーツ振興によるまちづくりについて」和歌山県上富田町

上富田町は、1965年9,660人から2017年15,562人と半世紀以上にわたり人口増加を続けている。農業の町を方向転換、「農業と商工業の調和のとれた田園工業型の町」へと転換した。

農業の町だけでは、町の人口は増えないので企業誘致に力を入れた。又、企業誘致だけでは人口を増やすのは難しい。そこで出て来るのは、健康で生きがいのある町づくりである。1989年ふるさと創生事業1億円も財源として、スポーツセンターを1992年に着工、1995年に完成した。その後「上富田町＝スポーツ教育の盛んな町」として人口増加に寄与することになる。公がやるべきことは役場で優先的に実行、その代わり個人でカバーできることはできる限り個人へ、財政が貧弱だから民間の人が助けてくれる。上富田町の行政の特徴は「財政の貧弱さ」を武器に変え、住民や地元企業の協力、支援を得ることで「移り住み、住み続けたくなる町づくり」が「人口増加」の鍵である。

#### ○上富田スポーツセンターを核としたスポーツ施策

イベント広場、球技場(天然芝)、多目的グラウンドBコート(天然芝)、クラブハウス、多目的グラウンドAコート(人工芝)、スポーツサロン、地域限定旅行業取得、食育交流センター、等が経緯である。

#### ○合宿実績

サッカー 柏レイソル、セレッソ大阪 他  
ラグビー トヨタ自動車、ホンダ 他  
野 球 阪神タイガース、日本代表 他

#### ○施設利用状況

利用料 16,734千円  
利用者 106,735人、サロン 394名、  
旅行業取扱数 宿泊6,910人、弁当9,674個

#### ○課題 平日昼間の利用増、スポーツ好きな人の増

スポーツ施設の維持・管理・修繕は指定管理料32百万円。修繕は30万円以上は町が負担。スポーツ施設以外では集客施設は無い。運営について団体や企業の関りは無い。協議会の理事に企業や団体の長クラスの人が入って運営方針等を決定している。Seaca(シーカ)は協賛という形で支援有り。

財政的に厳しい中で事業を選別してスポーツに特化した取り組みは、町の特長を作

る。子どもたちに自慢出来る町、住んで良かったと思える町づくり。和歌山県住み心地ランキング1位。

清水町の体育館建設に向け、上富田町の施設建設の経験から、建設に対しての方向性などやっておかなければならないこと、後で負担が大きくなるポイントは、地域住民だけの施設であれば特段難しくない。各競技団体と相談し、何の協議を対象にするのか。予約方法、優先順位、減免制度など。

合宿誘致等を併用するとなれば、経済波及効果を明確。維持管理費、修繕料は指定管理者負担を分ける。等々アドバイスを受けた。

## ②「子育て支援について」愛知県豊橋市

豊橋市は「とよはし子育て応援宣言」を発表し、地域ぐるみでパパやママの子育てを応援できる環境づくりに取り組んでいる市である。

### ○ファミリー・サポート・センター

子育ての援助を受けたい人と子育ての援助をしたい人がそれぞれ会員登録し、相互援助活動をする組織を運営、依頼会員は保育園の送迎や、一時的な預かりを援助会員に依頼し、利用料を支払う。市ではファミリー・サポート・センターの運営を社会福祉協議会に委託しており、利用状況は会員数2,073人、依頼会員1,569人、援助会員340人。

### ○育なび

育なびの管理運用については、平成25年2月豊橋市の子育て情報をまとめたホームページとして開設、管理運営は市職員が行っている。

### ○ママサポートプラン

妊娠届出時に全数面接を実施、ママサポートプランを使って、各種サービス等の情報提供を妊娠期から行う。

### ○産後ケア

産婦の療養上の世話・生活面の指導等を実施。利用目的に沿ったサービスの提供により、産後の十分な休息、育児不安の解消に繋がっている。

### ○妊産婦育児等支援サービス

妊産婦に対して食事の世話、調理、住居の掃除、洗濯、乳幼児の世話の補助。

### ○チャイルドサポートプラン

親子の触れ合い遊びや個別相談を実施。サポートプラン説明会で初めてこども未来館や地域子育て支援センターを利用する人も多く、遊び場、相談先を知るきっかけとなる。

### ○放課後児童クラブ

豊橋市では通常児童クラブ98か所開設。夏休み限定クラブも開設している。

### ○障害児の生活向上のための支援

障害児通所給付費の支給を決定し、日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、必要な訓練、自立を促進する支援。

### ○ひとり親家庭支援公式LINE

市のひとり親家庭支援公式LINEは情報提供を主としている。WEBから初回相談が

出来るようになっている。

③「郷土教育について」 渋沢史料館

東京都北区 昭和 57 年、渋沢栄一旧邸跡に設立された博物館。1998 年に本館を増設し、現在 3 か所の建物を見ることが出来た。

渋沢栄一に関わる学習の取り組みを視察、深谷市にある記念館の方が新しく、北区の史料館の方が古い。

十勝開墾会社や渋沢栄一の功績についても、史料館の中でも詳しく展示されていた。

④総 括

上富田町は半世紀以上も人口を増やし続けている。何故か。健康で生きがいのある町づくりである。スポーツを軸に健康のまちづくりでスポーツセンターを着工。スポーツと町づくりが結びつくのは、冬も施設が使える、年中利用できる。又、ベッドタウン的要素もある。

本町に於ける新体育館にあたっては、あくまでも町民のための施設であるべきと今回の調査により、私の考えに至った。

子育て支援については、豊橋市の人口 30 万人以上の中で良く事業を行っている、と感じた。特段、目を見張るような新しい施策は見当たらず、清水町に於いてもかなり充実していると感じる。しかし「子育ては清水町で」と至るには、まだ、何か足りない。今後、子育て支援の充実に必要な努力がある。

郷土教育については、渋沢史料館を見せてもらい、渋沢栄一の偉大さを感じた。又、本町に於いては、十勝開墾会社によるつながりにより、渋沢栄一ゆかりの町として、注目、ゆかりの町同士の交流を深めていく必要があると同時に郷土史を教育に生かすべき。

## 厚生文教常任委員会視察研修報告書

山下清美委員

- 調査事項 ①スポーツ振興によるまちづくりについて  
②子育て支援について ③郷土教育について
- 調査期日 令和4年7月12日(火)～15日(金)
- 調査先 ①和歌山県上富田町 ②愛知県豊橋市 ③渋沢史料館
- 調査の結果

### ①「スポーツ振興によるまちづくりについて」和歌山県上富田町

町：北の田辺市、南の白浜町に囲まれ、海に接しない57km<sup>2</sup>の町。  
県内人口は毎年1.5万人減少する中1965年から人口微増続く。  
交通の便が良い。  
羽田空港から白浜空港へ1時間、大阪から町まで高速道路で2時間、  
住み心地ランキング県内1位、  
行政サービスが良いとのコメント有、町内に大きなスーパー5店舗、  
南海地震の不安から田辺市の沿岸部からの社会増が多い。

経過：「農業の町」から、1970年代は「企業誘致に力」を入れる。

1989年ふるさと創生1億円をきっかけに「スポーツ施設を軸にした健康のまちづくり」へ方向転換、金塊ではなく、子供たちの将来につながることに使おうと考えたことが、今芽を出している。

令和元年 地方創生交付金総合戦略「上富田ウェルネスタウン構想」

～町民や町内事業所も上富田町に訪れた人もスポーツをする人もそうでない人も  
みんなが心身ともに健康になる～

施設：上富田スポーツセンター：1992年野球場着工から2018年カフェ完成  
プロ仕様野球場(屋根付ブルペン)阪神タイガース2軍公式戦毎年2回  
天然芝グラウンド2面(サッカー、ラグビー、アメフト、ラクロス、  
フットサルなどに使用できる)(和歌山県フットボールセンター)  
人工芝グラウンド 1面  
人工芝テニスコート4面  
屋内イベント広場(雨天練習場)  
スポーツサロン(トレーニング機器多数配置、専門資格トレーナー常駐)  
食育交流センター(カフェ)  
総工費27億円だが、各種資金を活用し町の負担は2.8億円程度  
指定管理料3,200万円(うち人件費は1.5人分)経費的には5千万円弱掛かるが、  
利用料収入は管理者の頑張りで利益が出ている。

運営：平成29年南紀ウェルネスタウン協議会(町が人財招致)に指定管理委託、地域限定旅行業を取得し、合宿のワンストップ窓口で、施設借上げから宿泊や昼弁

当まで一括受注し、一般旅行も扱う。

効果：介護予防対策で約5千万円の減額  
地域経済活性化約3億円(調査結果に基づく)  
Jリーグ代表誘致でイメージアップ  
スポーツ少年団、青少年への影響  
移住、地元就職、Uターンなどの人口微増につながっている。

所管：当初から社会体育施設の位置付けとして社会教育で所管していた。  
スポーツ観光としては、教育委員会では業務内容的に視野が狭くなるため、社会体育施設が中心になることには変わらないが、振興課は農業も産業振興も全ての振興があるので、そういうところと連携を図りながら、年間32百万円の町の税金を使っており、より効果的にこの施設を運用しようということで令和3年度から振興課に移管した。

特筆事項：総合型地域スポーツクラブが活発に活動している。  
イベント、大会等に160企業から寄付等のサポートがある。  
町の担当者が指定管理者の核となる人材を招致した。  
位置付けを社会体育施設から地域振興の総合施設とするため令和3年4月に社会教育課から振興課に所管を変更した。なお、この事業にかかわっていた職員が振興課長である。  
この事業は、この担当者によって成功されたと思われる。

## ②「子育て支援について」愛知県豊橋市

市：愛知県の東南端に位置し静岡県に隣接、南は海に面し、東海道53次34番目の宿場町、東三河の38万人弱の中核市、港があり自動車関連の工場が多く、自動車輸入全国1位、自動車輸出全国2位、新幹線が停まり、ひかり号で東京まで1時間半、

経過：子育てするなら豊橋市「とよはし子育て応援宣言」を発表し、地域みんなでパパやママの子育てを応援できる環境づくりに取り組む。  
子育て家庭を対象とした経済的な負担の軽減はもちろん、子育て環境や教育の充実に力を入れる。

施策：平成25年2月子育て支援情報ポータルサイト育なびHPを作成  
妊娠期から子育て期にわたる安心のママ&チャイルドサポート  
不妊・不育に関する相談窓口  
不妊治療への助成  
妊娠・出産・子育て総合相談窓口  
あらゆる出産を万全の態勢で支える総合周産期母子医療センター

新生児視覚検査への助成  
産後うつなどを防ぐための産婦健康診査  
産後ケア（宿泊型、デイサービス型の家事・育児支援）  
乳児家庭への全戸訪問

#### 独自に保育料を軽減

3～5歳	保育園・認定こども園の保育料	無料
	給食費（副食費）	第3子以降 無料
0～2歳	保育園・認定こども園の保育料	第3子以降 無料
		第2子 半額

#### 子育てと仕事が両立しやすい環境づくり

保育コンシェルジュによる入園の支援  
幼稚園の満2歳児の預かり保育事業  
子どもの預かり事業の充実 一時預かり施設（5か所）  
病児保育（3か所）  
ファミリーサポートセンター  
すべての児童が安全安心に過ごせる放課後児童クラブ 98か所  
公営 58か所、民営 40か所  
多様な体験活動の場トヨキースクール

#### 子育て世帯にやさしい住宅支援

子育て世帯に市営住宅提供  
ひとり親世帯や就学前の子どもがいる世帯の市営住宅への優先入居  
対象地域で家を取得し、居住する子育て世帯に奨学金交付  
新婚・子育て世帯を優遇する空き家利活用補助金

#### 充実した学習環境

毎日の授業を英語で受けるイマージョン教育  
研究小学校で、音楽・図工、体育、総合などの授業を英語で展開  
全小学校へタブレット端末を配備  
小中学校のモデル校へスポーツトレーナーを派遣  
外国につながる子どもたちへの日本語学習支援

#### 親子で楽しく過ごせる環境

こども未来館ここにこ  
交通児童館  
のんほいパーク（豊橋総合動植物公園）  
岩屋緑地、高師緑地など（緑のスポット）

経済的な困難を抱える子供の未来を応援

フードバンク事業

子どもが安心して過ごせる居場所づくり

学生服等のリユース

保育士資格を取得するための自立応援事業

ひとり親・生活困窮世帯の子ども向けの居場所づくり、学習支援

児童虐待防止に向けた環境づくり

子ども家庭総合支援拠点ココエールを中心とした取り組み

子どもや家庭に寄り添った相談と支援

心理検査に基づく助言

ボランティアの家庭訪問による家事育児支援や外出の同行

児童虐待防止、早期対応、再発防止のためネットワークの充実

障害がある子どもや発達に心配のある子どもの子育てを支援

医療的なケアが必要な子どもの保育園・学校等に看護師を派遣する費用の助成

集団生活への適応や生活能力向上のための訓練など障害児通所支援

ヘルパーの派遣や外出支援などの障害福祉サービス

社会参加を促すための外出支援や家族の一時的な休息のための日中一時預かりなどの支援

子ども発達センターによる支援(相談、診療・リハビリ、通園事業等)

特筆事項：相談に来られない人たちへのケア・目配りのために、子ども若者総合相談支援センターを設置し、月曜から日曜毎日相談を受け付けている。子どもからの声、言えない子については周りがしっかり見て連絡できるような体制が出来上がっている。

男女の参画を活発に取り組む実感としては、市職員で言えば昨年度 100 名の男性職員に子どもが生まれ、3分の1 ぐらいが育児休暇を取得している。市職員は取得しやすい環境が整っているけれども、これをいかに企業に広げていくのかというのが私たちの課題と思っている。市役所の職員は良いよねと言われないように、企業の男性職員が取得できる環境づくりは昨年度から検討を進めていて、来年度予算化を目指していきたい。行政と民間では規模も違うし、業種によっては働き方でなかなか難しいところもあると思うけれども、短くてもちゃんと育児に関わって、一緒にやるのが当たり前環境になっていくことが必要と思う。

子育て支援は、行政の取り組みを伝えることも大事だが、実際に親は何をしてほしいのか？金銭的なものばかりではなく、何を求めているのかニーズを把握すること。

③「郷土教育について」渋沢史料館

施設見学

飛鳥山公園 300年前、八代将軍徳川吉宗が江戸の行楽地、桜の名所として整備、公園の一角に渋沢史料館等が隣接している。

渋沢史料館 1982年旧渋沢邸跡に開館し栄一の生涯・活動を広く紹介  
公益財団法人渋沢栄一記念財団が運営

晩香廬 1917年栄一の喜寿祝って清水組より贈られた洋風茶室

青淵文庫 1925年栄一傘寿と子爵昇進祝いに竜門社が贈呈した書庫



## 厚生文教常任委員会視察研修報告書

深 沼 達 生 委員

- 調査事項 ①スポーツ振興によるまちづくりについて  
②子育て支援について ③郷土教育について
- 調査期日 令和4年7月12日(火)～15日(金)
- 調査先 ①和歌山県上富田町 ②愛知県豊橋市 ③渋沢史料館
- 調査の結果

### ①「スポーツ振興によるまちづくりについて」和歌山県上富田町

和歌山県上富田町に、スポーツ振興によるまちづくりについて研修してきました。

上富田町は1965年の人口が9,660人から、現在の人口15,600人まで増えたという。

もともミカンとウメの栽培が盛んな農業の町でしたが、農業だけでは町の人口が増えないので、地場産業も大事にしながら企業誘致に力を入れる。しかし、企業誘致だけでは人口を増やし続けるのは難しいので、スポーツ施設を軸に健康のまちづくりへ方向転換したという。スポーツセンターが出来た背景として、平成7年に野球場1面と2段目に人工芝の競技場が開設。基本的に町民がスポーツをするために使用する施設として始まった。

平成11年度に屋根付きの屋内イベント広場が完成。ここでテニスやグランドゴルフ、ゲートボールなど高齢者を中心に利用している。

平成13年度にグラウンドの1面を天然芝に、その後屋内イベント広場を人工芝にした。最終的に天然芝の球技場を作り、平成28年度にスポーツジムの併設し、その後食育交流センターとして食事もできるカフェが完成している。

上富田には町外の方が訪れる機会が無く、観光客が少ない中で、地域の活性化を図る目的でスポーツセンターを軸としたスポーツ観光事業をやって行くこととしている。スポーツセンターへ合宿誘致してきて、その人達を観光客と位置づけ、年間12万人ほど来客があるという。

### 【質疑】

問：Seacaに実際に働いている人数は。

答：最初はSeacaに指定管理を受けてもらっていたが、スポーツジムが出来たり合宿がいっぱいくる中で、業務が増えてSeacaは地域のスポーツ振興に特化しようということになり、スポーツ施設の管理やスポーツ観光については、南紀ウェルネスツーリズム協議会に指定管理として運営をやってもらうことで分けた。Seacaは1.5人でウェルネスツーリズム協議会は13人。

問：コロナ3年目に入りスポーツだけでなくいろんな活動も下火の中、これまでどのように対応してきたか。

答：スポーツ施設については県、サッカー協会、ラグビー協会のコロナ対策のガイドラインがあり、それを徹底してもらっている。合宿に来ていただいて辛かったのは、コロナになって来なくなってもその補償がなく、弁当屋と宿泊施設は辛かった。

問：清水も今新しく民泊事業を始めるけれども、新しく建てる体育館に併設する今ある

研修施設のようなものを作るのか作らないのかという話にもなっている。合宿する場所が無いと人を呼べないということもあるが、隣町との連携など、単独では難しいのか。

答：宿泊施設は少ないなりにもあったので、そういったものは行政で手を出すべきではないと考えた。清水も体育館が拠点になると思うが、そこだけでなく、ラグビー等は60～70人が来る。1週間合宿したときに、中間の休息の日などに地域の観光資源などにも行ってもらい、合宿が終わったら家族で来ようかという発想にも繋がるので、地域の良さを知っていただく。また、少年団チームなどは、ホテルに泊まるのではなくテントに泊まりたがる。キャンプ場を作った所があり、そこにも連携を取ってスポーツ合宿を誘致している。

問：スポーツセンター全体の総工費はいくらになるか。

答：全体で大体27億円。いろんな補助事業等を活用しており、一般財源は2.8億円ぐらいになる。起債の償還等もあるが交付税で70%補填されるなど、いろんな政策を使って出来るだけ町の負担を少なくしている。

問：スポーツを中心とした振興によって人口が維持されている。これ以外のまちづくりについて、県内で住み心地1位ということは、これだけじゃないという気がするけれども。

答：一番大きいのは交通の便と、スーパーの数と、コンパクトな町で生活するうえで不便が無いのかなと思う。大阪にも近い。

問：説明を受けて一番びっくりしたのは、このような施設は社会教育施設に位置付けられるけれども、それを教育委員会から所管を町長部局に移したところ。何故教育委員会にやらせなかったのか。

答：業務の内容的に視野が狭くなる。教育委員会だけであれば地域の社会体育施設が中心となる。振興課は農業も産業振興も全ての振興があるので、そういうところと連携を図りながら、年間32百万円の町の税金を使っているので、より効果的にこの施設を運用しようということで移管した。

問：町外から来て利用が増える中で、どのように地元の利用とバランスを取っているのか。

答：最初は心配したが、逆に強いチームがやってくることによって、それが地元のレベルアップにつながっている。もう一つは大会をやることによって地元のチームも参加するし、一緒に大会を経験して交流が図られる。逆に喜ばれている。トータルで考えたらメリットの方が大きいと思う。

②「子育て支援について」愛知県豊橋市

愛知県豊橋市の市役所にて、「子育て支援について」研修してきました。

堀田議長より歓迎の挨拶をいただきました。

豊橋市の人口は38万人弱の中核市である。新幹線も停まり、ひかり号では1時間半で東京まで行ける。

豊橋の手筒花火が有名で、農作物も「トマト」「ミニトマト」「スナップエンドウ」「うずら卵」「次郎柿」「大葉」等は、全国でもトップクラスの生産高があるそうです。

【質疑】

問：ファミリーサポートセンターの状況と今後の行方は。

答：援助を受けたい人の依頼会員と援助をしたい援助会員の登録を行い運営している。

利用料は1時間当たり平日で600円、休日700円、夜間の場合平日700円、休日夜間800円となる。運営については社会福祉協議会に委託し、委託料については970万円となる。

問：放課後児童クラブや体験事業でいろいろなことをやっている。指導者はどの様に募りながら取り組んでいるのか。

答：児童クラブではなく「のびるん de スクール」の方で、令和元年度に試して1校実施してみて、令和2年度に2校、令和3年度12校、令和4年度には52校に順次拡大ということで、指導員は職員の知り合いでスカウトをした。52校で実施する上で開催を週2回に改めた。

問：カリキュラムはある程度組んでいるのか。

答：12ブロックに分けてそれぞれ先生も企業やプロバスケットボールなどからも来てもらい、福祉施設からも車いす体験やAED体験などに来てもらっている。

問：育なびについて、ホームページについての管理は職員が行っているという事だが、これは専従になるのか、通常の業務の片手間か。

答：通常の業務の中で。元々作り込むときには大変だったが、その後は基本的には各課で対応ということで、ハンドブックも作りこれも年1回発行している。特に専従としてはいない。

問：LINEアカウントについて発信が主という事だが、相談内容が担当課と違う住宅の件であった時などは、繋げていくことになるのか。

答：基本的に答えられることは、関係課とはひとり親に関する事業で連携しているので、そこについてはもちろん内容を簡単に説明しつつ、担当課に確認しながらどの程度まで言って良いかというところも含めて対応している。

問：要するに横のつながりを持って対応していると。

答：ひとり親の方、そうられる方、これから離婚しようと思って相談される方もいる。その方たちの悩み・心配事は無限にある。仕事も決まっていないから家も借りられないという方も居るので、そういった部分をどうしたらいいのかという相談も連携している。

問：子供が病気をしたときに預かりをしてくれる形になっているのか。

答：熱が出ているときなどは保護者が病院に連れて行くけれど、まだ調子がすぐれなく

て休ませようというときなどに預けたいという方が居るので、どちらかという病児保育のような感じで利用する方もいる。

問：産後ケア事業はお産してからの相談などだと思うけれども、宿泊型とはどのようなものなのか。

答：本市でもネグレクトによる児童死亡事故が平成24年に発生し、以後しっかりと母体の状況を妊婦の時からケアしていかなければならないということで、子どもが生まれてからも状況を確認しながら、産後うつもあるので、宿泊や短い時間の支援を行っている。

問：障害児の支援について、どのように人を配置しているのか。

答：豊橋市に1校特別支援学校があり、隣の豊川市に県の特別支援学校があったがそこだけでは難しいということで、豊橋市と隣の田原市の子が通う小・中・高の一貫校を作った。当初の予定していた人数よりどんどん増えて、特別室をつぶして教室を増やして対応している。多くの子と学んだことによって、スキルが上がり障害がありながらも次のステップに進める子もいる。

問：なかなか相談に来られない人たちへのケアにどういった目配りを行っているのか。

答：相談支援センターができた事によって、学校との連携が濃くなり、学校・保育園・幼稚園で心配な子どもが居ると、ちょっとした事でもセンターに連絡が入り、センターから職員が学校に出向いてその子の状態を確認し、話を聞いて保護者に介入するなど、言えない子については周りがしっかり見て連絡できるような体制が出来上がっている。

問：人口38万人の中で手厚く対応されている。子育て支援が手厚いことから転居される方はどのくらいいるのか。

答：実際に豊橋市の産業の部分では中小企業が多い。どちらかという製造系で男性企業が多い。女性が働く場は限られてしまう。また、豊橋の地価が高いこともあり、転居されるまでには至っていない。

③「郷土教育について」 渋沢史料館

東京都北区にある渋沢史料館を見学してきました。

本町と交流がある東京都北区の関係者として、東京商工会議所北支部越野允博会長、自由民主党高木けい衆議院議員、渋沢史料館井上潤顧問の3人の方々が挨拶にみえられました。

渋沢栄一は1840年、現在の埼玉県深谷市に生まれ、農業、商業を営む実家を手伝うかたわら、縁あって一橋慶喜の知遇を得て家臣となりました。

1867年パリ万博で文明に触れ、感銘を受け、帰国してからはその経験を活かし、民間の立場から約500社にのぼる株式会社、銀行などの設立、経営指導に尽力し、民間経済外交、社会公共事業に取り組み近代日本の経済社会の基礎を作りました。

渋沢史料館は、活動を広く紹介する博物館として1982年に開館しました。

渋沢栄一の91年の生涯を、年齢ごとに展示されていました。

幅広い活動を知るということで、渋沢栄一が携わったさまざまな事業や活動、多くの人々との交流の紹介がありました。

また、売店にJA十勝清水町の若牛カレーやにんにくの醤油が販売されていました。

## 厚生文教常任委員会視察研修報告書

川 上 均 委員

- 調査事項 ①スポーツ振興によるまちづくりについて  
②子育て支援について ③郷土教育について
- 調査期日 令和4年7月12日(火)～15日(金)
- 調査先 ①和歌山県上富田町 ②愛知県豊橋市 ③渋沢史料館
- 調査の結果

### 【はじめに】

今回の視察研修は、①現在計画されている新体育館を核としたスポーツ振興の在り方、②日本一の子育て支援策から何を学び、何を今後充実させていくか、③時の人である渋沢栄一翁をどう郷土教育に活用するのか、これら3点を中心に学んだ。

### 【研修報告】

#### ①「スポーツ振興によるまちづくりについて」和歌山県上富田町

##### 《施策の概要》

1. 上富田町のまちづくりは数多くの変遷を経ながら、現在スポーツ振興による健康寿命日本一を目指し進められている。中心となるのは一般社団法人「南紀ウエルネスツーリズム協議会」(13名)で、旅行業を取得したスポーツ観光法人。体育施設管理から合宿誘致、食育事業、観光事業、介護予防事業までワンストップ窓口で行われている。
  - ・ 町の所管が2021年4月から教育委員会から振興課に移し、単に社会体育施設ではなく、スポーツ・介護予防・健康対策・町の知名度を上げる施設として、新たにカフェも作り食育など総合的に取り組んでいる。
  - ・ 一つは、アスリートのための食育交流センターを開設。スポーツに特化し、良質なタンパク質など配食した「上富田スポーツセンター弁当」を開発。合宿などスポーツ選手に人気となっている。
  - ・ もう一つは、スポーツサロンを開設。プロや実業団のラグビーチーム専用のジム機器を整備。様々なプロ、実業団チームが手ぶらで合宿に来ることが可能となり、恒常的に利用するチームが増えている。
2. 町民のスポーツ振興は、NPO 総合型地域スポーツクラブ『特定非営利法人くちくまのクラブ(通称Seaca)』が主体となり、毎月500円の会費を払えば、サッカー、野球、バレーボール、バスケットボール、バトミントン、空手、柔道、剣道、ダンス卓球、カヌー、レスリング等のサークルに自由に参加でき、上富田小学生870人中約500名が参加。運営は各少年団を中心に行い地元企業160社の寄付金やイベント時の参加賞の提供などでサポートされている。Seacaに子どもを通わせたいからと上富田町に移住する人もおり、町外からも150人ほどの小学生がSeacaに参加するほどの人気と言う。
3. スポーツサロンはラグビーのトップチームやサッカーのJリーグチーム、プロ野球チームの合宿だけではなく、町民にも「健康になって欲しい。そうしないと意味がな

い。」と開放。町の介護予防事業を受託、まちぐるみで健康増進を図っている。(会員数は約400名で65歳以上は約130名：32%)

4. 付随して、カフェや児童公園、キャンプ(テント合宿)は災害時60組(家族)の避難場所として受け入れ可能。まだ宿泊施設が不十分なため、紀南地区全体で受け入れ、合宿後は1日観光してもらうようスケジュールを組み、お互いで合宿等の誘致を実施している。

#### 《成果と今後に向けて》

1. 全体で思うことは、町の未来に向けたコンセプトが明快なこと。併せて振興課長をはじめ、南紀ツーリズムやSeacaなど、主体的メンバーが非常に熱意を持っていること。まさに人材あつての話と議員の一人が語っていたのが印象的であった。人材育成の重要性をあらためて感じた視察研修であった。
2. さて、清水町でもR7年度開設に向け新体育館の準備が進められている。ぜひ、この新体育館が将来のまちづくりの核施設になるよう期待したい。そして建設費が不足するので、施設面積や駐車場を縮小し、合宿出来る宿泊施設も作らないなど、将来に禍根を残すような施設にならないよう注視したい。
3. 今町に求められているのは、アイスホッケー(アイスアリーナ)をもう一度見直し、これを軸とし、清水高校と連携して全国からホッケーを希望する高校生を呼び込み高校の振興を同時に図る。新体育館はホッケー選手を中心にトレーニングにも堪え得るように設備を充実し、合宿施設も設置。新たな民泊事業は全国からホッケーを希望する高校生の体験にも活用。隣の新得町に来る陸上合宿も受け入れ、町民の健康増進にも活用。合宿施設は災害時の避難所としても活用可能とする。

このように、アイスホッケーと新体育館を一体としてスポーツ振興を中心としたまちづくりを目指す。今求められているのは、そのような将来ビジョンではないか。

今回、上富田町のスポーツ振興によるまちづくりは、そういう点で非常に参考になったことを報告したい。

#### 《資料》

##### ○上富田町の規模・財政状況等

- ・面積 57.37 km<sup>2</sup> 人口 15,240 人 世帯 6,363 世帯
- ・一般会計 79 億円 地方税 17 億円 経常収支比率 89% 財政力指数 50%
- ・大東建託和歌山県 30 市町村中、住みごこちランキング 2022 第 1 位

##### ○スポーツ施設利用状況

- ・指定管理料 32,240 千円 利用料 16,734 千円
- ・利用者数 106,735 人(サロン 394 名)
- ・旅行業取扱数：宿泊 6,910 人 弁当 9,674 個

##### ○上富田町について

###### (1) 総合計画に見る町づくりの変遷

- ・第 1 期総合計画(1976 年)・・・「農業の町」  
・・・農業を核に、農林省の様々なモデル事業を実施。
- ・第 2 期総合計画(1987 年)・・・「農業と商工業の調和のとれた田園工業型の町」  
・・・農業だけでは人口増が望めないため、働く場所としての企業誘致と暮らす場所

としての住宅団地を造成。企業誘致に力を入れる。

- ・第3期総合計画（1999年）・・・「健康で生きがいのある町づくり」  
・・・企業誘致だけでも人口増は難しい。そこで、健康で生きがいのある町づくりとして「健康（スポーツ）」にシフトする。
- ・第4期総合計画（2010年）・・・「みんなが学んで花ひらく口熊野かみとんだ」  
・・・2006年にNPO 総合型地域スポーツクラブ『特定非営利活動法人くちくまのクラブ』（通称 Seaca シーカ）を設立。町民ボランティアが主体となり、スポーツや文化のサークルに自由に参加できる教育活動の場が充実し、「住み続けたい町」から「移り住みたい町」に。奇跡的に半世紀にわたり人口増を続けている。

## (2) 地理的条件

- ・交通の便に恵まれる  
・・・白浜空港を利用すると1時間で東京に繋がる等、リモートワークに最適。
- ・近隣田辺市より内陸。想定される南海大地震に備え、移住する住民も。
- ・周辺は観光地  
・・・地元は目立った観光地がないが、近隣は南紀白浜、等の観光地。周辺自治体を巻き込んでスポーツ観光に力を入れる。

## (3) 運営主体

- ・一般社団法人「南紀ウェルネスツーリズム協議会」（13名）
- ・NPO 総合型地域スポーツクラブ『特定非営利法人くちくまのクラブ（通称 Seaca）』

## ②「子育て支援について」愛知県豊橋市

### 《施策の概要》

1. ファミリーサポートセンターの運営は社会福祉協議会に委託。（委託料は970万円）特にひとり親世帯、多子世帯（3人以上の子）、多胎世帯について市独自につき2分の1上限1万円を償還払いの形で利用料補助を行っている。
2. 「育なび」は子育ての中で、必要な地元の情報不足を積極的に補うことを目的に運用されているとのことだが、リアルタイムでの情報発信の難しさを感じた。ただ、パパママサポーターによるブログ発信やインスタグラムを活用した市の情報発信、ひとり親家庭支援に関するLINE活用など、可能な範囲での取り組みを見て、情報発信の必要性をあらためて感じた。
3. 放課後児童クラブや体験事業を令和元年1校から始め、現在52校で実施されている。職員のロコミ・紹介から始まり、地域でのその拡がりに、職員の子どもたちに対する熱意の凄さを感じた。特に12ブロックに分けてそれぞれ先生も企業やプロバスケットボールなどから来てもらい、福祉施設からも車いす体験やAED体験など、地元の様々な企業からも協力の申し出を受けるなど、充実ぶりは清水における今後の課題と感じた。
4. 「こども未来館ココニコ」では、他の自治体からも受け入れ、子育て中の親子が交流するなど、屋内での遊びの場と相談体制がしっかり確保されている印象を受けた。

### 《資料》



### ○豊橋市の規模・財政状況等

- ・面積 261.91 km<sup>2</sup> 人口 373,833 人 世帯 161,770 世帯
- ・一般会計 1,341 億円 地方税 631 億円 経常収支比率 88.5% 財政力指数 0.99

#### 《成果と今後に向けて》

1. 全体で思うことは、人口 37 万人の中核都市でありながら、非常に手厚く子育て世代の親に対しフォローがしっかりされている点が印象的であった。清水も非常に充実した子育て支援体制にあるが、「しみず子育て応援アプリ」を今後発展させ、育児相談にも適用出来るよう、さらなる充実を期待したい。
2. また町の施策の情報発信の在り方、保護者のニーズ調査などの実施や、豊橋でも課題となっている、子育てに対する男性の意見をどうくみ取っていくか、男性・女性の意見をしっかり聞いた上で事業を展開していく難しさなど、課題も感じた。
3. 清水では、親子が遊べる「げんきひろば」や老人福祉センター「つどいの場」があるが、今後は御影地域や新体育館への設置・充実が期待される。
4. また、放課後児童クラブの充実をどう展開していくのかも今後の課題である。特に新体育館との連携により、ボランティア発掘による様々なスポーツの体験を通じたスポーツ振興など、可能性は無限であり、ぜひ今後の取り組みを求めるとともに、積極的に参加していきたい。

今回、豊橋市の子育て支援は、短い時間ではあったが非常に参考になったことを報告したい。

### ③「郷土教育について」渋沢史料館

#### 《成果と今後に向けて》

諸事情から今回は北区小中学校との郷土史学習に関わる連携について深堀する予定であったが、残念ながら渋沢史料館の見学にとどまった。

史料館は、渋沢翁が生まれてから 91 歳までの生涯がわかりやすく展示されていた。

印象に残ったのは、現役を引退後は人のためとしてボランティアや福祉に尽力していたことで、意外な一面を発見した点である。今後、一過性ではなく継続した教育にどう結び付けていくかが課題と感じた。

#### 【まとめ】

コロナ禍の中で、4年の任期中初めての委員会視察研修となった。もうすぐ改選期を迎えるこの時期の視察研修には様々な議論があったが、議員としての資質向上について任期中は常に求められるべきであり、時期を問わず様々な機会を捉えて実施すべきと考える。

そのような中での今回の視察研修は、スポーツ振興と子育て支援の充実によるまちづくりに対する一つの答えと課題を明らかにさせてくれた貴重な体験であった。

直ちにこれが活かされるかどうかは首長の考え次第であるが、共に住みよいまちづくりに向け、今後も期待に沿えるよう努力していきたい。そう感じた今回の研修であったことを最後に報告する。

## 厚生文教常任委員会視察研修報告書

中 河 つる子 委員

- 調査事項 ①スポーツ振興によるまちづくりについて  
②子育て支援について ③郷土教育について
- 調査期日 令和4年7月12日(火)～15日(金)
- 調査先 ①和歌山県上富田町 ②愛知県豊橋市 ③渋沢史料館
- 調査の結果

### ①「スポーツ振興によるまちづくりについて」和歌山県上富田町

上富田町は、小高い山がたくさんあり、平地が少ない。少ない平地には昔からの家々がある。

新しい大きな施設は小山を切り開き、サッカー場を2面、野球場、スポーツジム等を作っている。

- スポーツセンターは単に社会体育施設ではなく、スポーツ・介護予防・健康対策・町の知名度を上げる施設。カフェも作り食育にも取り組む総合的施設。担当は昨年4月1日から教育委員会から町長部局の振興課が担っている。

上富田町は和歌山県では白浜、田辺と違い観光客が少ない中で、地域の活性化を図る目的で、スポーツセンターを軸としたスポーツ観光事業を展開している。

スポーツセンターへ合宿を誘致し、その人たちを観光客と位置づけ、年間12万人ほどの来客がある。

スポーツ施設の利用料だけでは地元にお金が回らないので、お金を落とせる仕組みとして、一般社団法人を立ち上げ、旅行業の取得により、町の施設を利用する上で法人を通じて予約を取り、宿泊、弁当、夜の飲み会まで手配し、手数料をもらい、地域にお金を回していく。

- スポーツサロンは町の税金を投入して作っている施設で、住民にも恩恵、メリットが無ければならない。

スポーツのまちづくりを進める中で、住民が健康でなければ意味がないということで、「介護予防の観点」から高齢者にも50代の人にも来てもらう、自分から体を動かす文化を作っていく、健康寿命を延ばしていく、ことを目指している。合宿に来たときは合宿チームが施設を使うが、日常的には地元の人がサロンに来て体を動かし、健康になっていくことをコンセプト(概念)にしている。私たちが施設を見学した時も年配の方々がウォーキングマシンに乗って体を動かしていた。

- ・健康寿命 日本一
- ・和歌山県内 住み心地ランキング1位

「町に人が増える要素では教育が大事だと思う。総合型地域スポーツクラブ『Seaca(シーカ)』に子どもを通わせたいから上富田に移り住む人もいる。」と前の町長。働く場所を誘致し、住民たちがイベントや教育活動に参加し、町に誇りと愛着を持っている。人と人とのつながりを大事にしている町である。

②「子育て支援について」愛知県豊橋市

- 豊橋市は人口 37 万人が住む愛知県の中核都市。住民の平均年齢が男 44.1 歳、女 46.9 歳。中小企業、製造業が多く、特に男性の働く場所が多い。
- 豊橋子育て情報ハンドブック（0～3歳）、（4歳～）、それぞれ 70 ページ仕立て、毎年作り配布。「いざというとき」「お出かけ情報」「手当・助成など」と項目を分けて説明している。カラーで写真も多く取り入れ、見やすくなっている。
- 新たな放課後の体験事業（のびるん de スクール）について
  - ・ R 4 年度開設校 12 校（1 学期）、全部で 52 校（2 学期から）。平日の放課後の時間（学校施設）を活用し、子どもの健全育成や能力発掘を目指した事業。
  - ・ 市の配置したスタッフ（職員の紹介、シルバー人材センター、専門的な外部講師等）により、多様な体験活動を展開。放課後児童クラブ利用児童は無料で参加できる。
  - ・ 放課後児童クラブを所轄する厚生労働省と放課後子ども教室（のびるん de スクール）を所轄する文部科学省が連名で示した「新放課後子ども総合プラン」で推奨されている「一体連携型」に対する市独自の取り組みとして、留守家庭の垣根を越えた放課後児童の一体的教育活動の推進をしている。

③「郷土教育について」渋沢史料館

- 昨年、本町にお越しいただいた前館長さんのお話を聞いた。又、昨年放送された大河ドラマ「青天を駆け」も毎週見ていたので、渋沢栄一氏のことはだいたい分かっていた。

今回、改めて史料館を見学したが、氏の年齢毎に説明・写真があり、詳しく説明されていた。

氏の言葉の中で「真似をするときにはその形ではなく、その心を真似するのがよい」とあったが、その通りだと思った。

## 厚生文教常任委員会視察研修報告書

高橋政悦委員

- 調査事項 ①スポーツ振興によるまちづくりについて  
②子育て支援について ③郷土教育について
- 調査期日 令和4年7月12日(火)～15日(金)
- 調査先 ①和歌山県上富田町 ②愛知県豊橋市 ③渋沢史料館
- 調査の結果

### ①「スポーツ振興によるまちづくりについて」和歌山県上富田町

野球場(両翼98m、センター122m)、多目的グラウンドA(人工芝121m×102m)、B(天然芝121m×85m)、球技場(天然芝128m×80m)、テニスコート(砂入り人工芝コート4面)、屋内イベント広場(雨天練習場)人工芝2,000㎡、トレーニングジム525㎡、研修棟128.8㎡、クラブハウス331.77㎡、食育交流センター、各種遊具を設置した芝生広場からなる上富田スポーツセンターの運営、維持管理、支援企業、町民との関わりについて視察研修を行った。

運営については、企業や各団体の代表者を理事とする協議会を設置し、各競技団体との協議を重ね改善ポイントを明確にした上で運営方針等を決定している。

管理については、指定管理者制度を導入しているが、管理のみに特化した団体ではなく、旅行業登録によりスポーツ観光に係る旅行斡旋等で収入を得ているため、施設規模に対する管理料が3,200万円程度に抑えられていることは驚きであった。

また、スポーツ観光と地域スポーツのバランスも重要であり、本来であれば、社会教育課(教育委員会)が所管すべき体育施設を振興課(町長部局)へ移管替えし、スポーツをまちづくりのためのアイテムと位置づけ、各種イベントの企画、合宿誘致が交流人口の増加につながっている。

清水町新体育館建設に対して、町民のみが利用するための体育施設であればそれほど規模は必要なく、現に上富田町の体育館は清水町体育館より古く小さい。しかしながら冬期間屋外施設を利用できない北海道において、屋外施設を充実させることは難しい。これから建築する体育館にあっては、中途半端なものは広がりも期待できないし、上富田町のようにまちづくりにつなげる企画、アイデアが出なくなることが懸念される。

今回の視察研修から新体育館建設については、各競技団体との協議はもちろん、スポーツ観光の視点からも設計に加味すべきと感じた。

### ②「子育て支援について」愛知県豊橋市

子育て支援については全国市町村にあってトップクラスのメニューを誇る清水町において更なる支援拡充方策について、愛知県豊橋市で視察研修を行った。

38万都市の豊橋市は、当然清水町に比べ対象となる子育て世代が多いにも関わらず相談体制、支援組織が充実しており、経済的支援メニューの限界をカバーしている。

相談、告知等についてはSNS、LINE等を使い、内容によっては子育て支援課から担当課へ伝え対応する応援体制も確立されている。

支援組織については行政が積極的に育成プログラムを行使し、必要数を確保するほか、大都市にありがちな、里帰り出産ができない、親族の支援が困難な妊産婦、乳幼児の世話等、産後ケア育児支援サービスの提供、チャイルドサポートメニューとして親子交流、講座、一時預かり事業、個別相談等支援メニューも細やかに配慮されている。

清水町でも同様に多くの支援メニューが提供されているが、子育て世代の知りたい情報について、その提供方法に一考が必要と感じた。

また、豊橋市にあっても情報の内容についても分かりづらい等のクレームが寄せられるため行政用語を用いた説明をできるだけ行わないようにしている。

それが理解を得ることにつながるし、子育て世代への支援充実となると考える。

今後は子育て世代の情報提供方法のニーズを把握し、もれなく支援できる体制づくりが課題なのかと感じた。

### ③「郷土教育について」 渋沢史料館

郷土教育については清水町に関わりのあった渋沢栄一翁の史料館を教材とし研修した。

現在の日本を成した一人が清水町にどんな関わりをもって何をしたのか、そこから子供たちは何を感じ、何を成すべきと考えるのか、答えは子供たちが出すものだが、答えを出せる子供たちへ導くのは大人であり、環境を整えるのも大人。

渋沢史料館へ足を運ぶのは悪くない。